

外機密

昭和18 二一九八七 (暗) 盤谷 七月二十六日後發
本省 二十七日前着

豐田外務大臣 第四四九號(至急、外機密)館長符號扱

二見公使

貴電第四二七號ニ關シ(佛印ノ共同防衛ニ關スル帝國政府聲明發
表ニ關スル件)

早速「ビフン」ヲ往訪本件ハ日「タイ」特殊友好關係ニ鑑ミ特ニ
政府ノ訓令ニ依リ内報スルモノナリト傳ヘ御來示ノ次第ニ依リ適
宜説明ヲ加ヘタル處「ビ」ハ帝國政府ノ好意ニ對シ深甚ナル謝意
ヲ表シタリ

電信寫

17.0.0-9-2

結構ナルコトナリト言ヒ質問益敷キコトモ行ハス極メテ平靜ニシ
テ事態當然ノ歸結ナリト爲シ居レルカ如キ印象ヲ得タリ或ハ寧ろ
本件ハ過キニ過キタリト爲スカ如キ口吻ヲ洩セリ

本使ヨリ「タイ」國內輿論ニ對スル影響ヲ尋ネタルニ「ビ」ハ日
本カ佛印ニ對シ強ク出ラレルコトハ一般「タイ」人ノ歡迎スル所
ナリト答ヘ又英國側ノ意嚮如何トノ質問ニ對シ英國側トシテモ鐵
ニ御話セル通り大シタ反應ナカルヘシ(往電第一〇六號參照)尤
モ一應ノ用意トシテ「チンボーン」ノ防禦障地ヲ補強シツツア
リト答ヘタリ

最後ニ本使ヨリ今後佛印事態落付クニ從ヒ日「タイ」ノ政治的經
濟的協力ハ一層確實ナル根柢ノ上ニ立ツコトトナルヘシト言ヒタ

6 17.0.0-14 620

6 17.0.0-14 619

REEL No. A-1077

0345

アジア歴史資料センター

外機密

ル處「ビ」ハ全ク同感ナリト強ク贊意ヲ表明シタリ(了)

電信寫

6 1.7.0.0-14 621

秘

總番號 二八三五四 符略 昭十六年 七月廿六日 後十時卅分 發送 三

在英 上村代理公使

磯田外務大臣

佛軍進駐ニ付英大使ト會談ノ件
第二三三號

二十五日英國大使ノ來訪ヲ求メ佛印ノ共同防衛ニ關スル日佛間
合意成立セル旨ヲ通告シ右合意ハ最近佛印ノ存立及安全ヲ危殆
ナラシムル如キ不遜ナル情報アルニ鑑ミ佛印ノ安全保障及平和
維持ヲ圖ルト共ニ歐日包圍陣形式ニ脫抗スル爲日佛間ニ於テ友
好裡ニ成立セルモノニシテ其ノ性質ハ飽ク遠防禦的ニテ如何ナ
ル第三國ヲモ攻撃目標ト爲レ居ラス帝國ハ佛印ノ領事保存及主

往電寫

6 1.7.0.0-14 622

電信課作成

REEL No. A-1077

0346

アジア歴史資料センター

機重義務ヲ遵守スル意圖ナル旨説明セルニ對シ同大使ハ所謂
不確情報ハ何等根據ナク日本ニシテ右ヲ口實トシテ兩進スル場
合日英間ニ重大ナル事象發生スヘキコトハ果大帝國外務當局ニ
警告シ來リタルニ拘ラヌ右通告ニ接シタルヲ遺憾トシ英國カ日
本ノ今次佛印ニ對スル措置ヲ以テ極東ニ於ケル英國領土及權益
ニ對スル潜在的脅威ト認ムルハ同日「イーデン」外相カ下院ニ
於テ演說セル通りナル旨述ヘテ引取リタルカ本二十六日來訪合
第一六一五號ノ通告ヲナシタル際自己ノ私見ニ過キサレ旨前旨
ニ今次佛印問題ニ關スル日英間見解ノ相違點ハ前記不確情報ノ
眞偽如何ニ在ルヲ以テ何レカニ判明スル迄派兵ヲ延期セラレ得

6 1.7.0.0-14

623

REEL No. A-1077

0340

アジア歴史資料センター

ルコトニ努ム

七、蘇聯ニ對スル言論ニ於テハ特ニ彼ト第三國トノ連衡ヲ誘發セザルコトニ注意ス

八、皇軍ノ佛印増派ヲ以テ今後支那事變處理ガ皇國對外政策ノ中心ヨリ移行スベシトスルガ如キ言論ヲ排除シ

重慶政權ヲシテ我が壓力ノ輕減ヲ肯望セシメザルト共ニ國民政府ヲシテ大東亞共榮圈建設ニ對スル皇國不

動ノ決意ト實力トヲ切實ニ感得セシムルコトニ努ム

特ニ重慶側ニ對シテハ皇國ハ今次ノ舉ニヨリ大東亞共榮圈態勢一應整ヒ全力ヲ舉ゲテ支那事變處理ニ邁進

シ得ベキ自由ヲ獲得シタルコトヲ示唆シ國民政府ニ對スル我ノ育成強化並ニ樞軸諸國ノ承認、蘇聯ヨリノ

援蔣中絶等ノ情勢ト相俟テ對重慶壓迫ハ愈加重セラルベキコトヲ宣傳シ其ノ抗戰力破碎ニ對スル努力ヲ怠

ラザルノ着意ヲ肝要トス

四

6

佛印ニ關スル共同防衛協定成立ニ伴フ輿論指導方針

情報局	企甲第七號
昭和十六年七月二十六日	

極秘

取扱上ノ注意

本書ハ輿論ノ指導並ニ言論ノ取締ニ活用スベキモノニシテ終始之ヲ徹底ニ死藏スルガ如キハ其ノ本旨トスル所ニ非ズ仍テ左ニ本文ノ取扱種別ヲ區分シ活用ト防禦トノ使ヒ分ケヲ明カナラシメントス

一、本文中傍線(——)ヲ施シタル部分ハ官廳首腦部或ハ取締當局ノ參考トシテ腹中ニ藏スベキモノヲ、又傍

點(・)ヲ施シタル部分ハ必要ニ應ジ防禦上特ニ信賴スルニ足ル民間指導層ニ其ノ要旨ヲ口傳シテ可

ナルモノヲ示シ夫々極秘或ハ秘ノ取扱ヲ爲スモノトス

二、其ノ他ノ部分ハ積極的ニ輿論ノ指導ニ利用スベキモノナルモ中央當局ニ於テ處理スルモノヲ除キ政府ノ

發表或ハ指示事項トシテ公表スルコトハ之ヲ避クルヲ要ス

石井

S 17.0.0-14

624

S 17.0.0-14

627

第一方針

- 一、佛印ニ關スル共同防衛ノ目的ハ重慶政權ト第三國トノ合作ニ依ル軍事的、政治經濟的包圍態勢並ニ重慶政權其ノ他ノ謀略行爲ニ對シ協同シテ佛印ヲ防衛シ以テ皇國ノ自存自衛ヲ完フセントスルニ在リ
- 二、從テ之ニ伴フ輿論ノ指導ハ國民ヲシテ右共同防衛ノ目的ヲ徹底的ニ理解セシメ大東亞共榮圈ノ確立ニ對スル國內態勢ノ結束強化ヲ促進スルト共ニ我ガ毅然タル態度ヲ國外ニ反映セシメ第三國ノ干涉防遏ニ寄與スルヲ以テ方針トス

第二要領

- 一、日佛印共同防衛ノ目的ヲ闡明シ萬一第三國ノ干涉ヲ受クルモ斷ジテ之ニ屈セザルノ決意ヲ一層鞏固ナラシム
- 二、日佛印共同防衛ノ目的ヲ闡明シ萬一第三國ノ干涉ヲ受クルモ斷ジテ之ニ屈セザルノ決意ヲ一層鞏固ナラシム
- 三、日佛印共同防衛ノ目的ヲ闡明シ萬一第三國ノ干涉ヲ受クルモ斷ジテ之ニ屈セザルノ決意ヲ一層鞏固ナラシム
- 四、日佛印共同防衛ノ目的ヲ闡明シ萬一第三國ノ干涉ヲ受クルモ斷ジテ之ニ屈セザルノ決意ヲ一層鞏固ナラシム
- 五、日佛印共同防衛ノ目的ヲ闡明シ萬一第三國ノ干涉ヲ受クルモ斷ジテ之ニ屈セザルノ決意ヲ一層鞏固ナラシム
- 六、日佛印共同防衛ノ目的ヲ闡明シ萬一第三國ノ干涉ヲ受クルモ斷ジテ之ニ屈セザルノ決意ヲ一層鞏固ナラシム

二、本問題ニ關聯シ佛印ノ米ハ日本人ノ生活上今ヤ必須ノモノトナリ佛印トノ結合ハ皇國死活ノ問題トナリ來レルコトヲ強調ス

三、佛印當局ニ對スル國內輿論ノ反響ヲ考慮シ彼ヲシテ愈々皇國ノ大東亞共榮圈確立ニ寄與セシムル如ク誘導スル爲左ノ諸點ニ留意ス

- (一) 皇軍ノ駐屯ニ關シテハ佛印當局ガ新情勢ニ即應シ皇國ノ支那事變處理並ニ大東亞共榮圈確立ニ同調協力シ「共同防衛」ノ爲皇國ニ便宜ヲ供與スルコトナリタル點ヲ強調シ之ニ必要ナル一部兵力ノ増派ヲ實施スル次第ナルコトヲ明カナラシム

(二) 土着民ノ反佛、獨立蜂起ヲ促スガ如キ言論ハ之ヲ排除ス

四、佛印ニ對スル兵力増派ニ引續キ更ニ南方進出強行乃至泰トノ軍事的結合ノ促進ヲ強調スルガ如キ言論ヲ排除シ以テ徒ニ英米蘭印等ヲ刺戟セザルコトニ留意ス

五、泰國民、華僑ニ對シ對日同調依存氣運ノ助長、英米策動ノ排撃ヲ指導スベキ宣傳工作ト齟齬ヲ生ズルガ如キコトナカラシム

六、皇軍ノ佛印増派ニ伴ヒ豫想セラルル第三國ノ樞軸離間宣傳ニ乘セラレザルコトヲ警戒スル、一方進シテ樞軸諸國ニ對シ今次ノ協定ガ三國同盟ノ趣意ニ合致スル所以ヲ認識セシメ我ガ國策ヲ支持セザルヲ得ザラシム

外機密

電信寫

昭和16 二二一五六 暗 四頁 七月二十八日午後 南
本省 二十八日午後

豊田外務大臣

豊田總領事

第二七三號

澄田少將一行及大本營鈴木中將一行夫々二十六日當地ニ到着セリ

(了)

S 1,7,0,0-14 628

秘

電信寫

昭和16 二二一九四 略 ヴイシー 七月二十八日午後 録、歐、南
本省 二十九日午前

豊田外務大臣

加藤大使

第四三七號 大至急

貴電第三三〇號ニ關シ(對佛申入ノ件)

佛側ニ於テ都合付カサル爲明二十九日午前十一時ニ署名刷印ノ豫
定署名ノ上ハ直ニ電報スヘン(了)

S 1,7,0,0-14 629

外機密

電信寫

17.009-2

昭和16 五五三二六 (暗)

廣東 七月二十八日後發
本省 二十八日夜着

豊田外務大臣

高津總領事

第二八〇號 龍後符號扱

往電第二三二號ニ關シ

本官本二十八日脚任挨拶旁々往訪セル際加藤參謀長ノ内話セル所ニ依レハ兩支軍ハ飯田兵團拂印迄進駐ノ爲引揚後ハ兩軍推退前ノ状態ニ歸リ兵力三個師團トナリ何レ總軍ノ配下ニ屬スルコトトナルヘキモ官分ハ依然大本營直屬ノ體ナル趣ナリ(了)

S 17.0.0-14 630

REEL No. A-1077

035

アジア歴史資料センター

外機密

電信寫

昭和18 一二三四〇 電 本 省 七月二十八日午後 二十九日夜着 米 弘

駐日外務大臣

一六六號ノ一

在電第一一〇號會議ノ際ニ於ケル首相ノ言葉ノ端々ヲ綜合スルニ
同首相ハ先般ノ我内閣辭職ヲ以テ外政ニハ我蘇滿鐵ノ是三ノ比
ト日蘇中立協約トノ間ニ復狹ミトナリタル故に外相ヲ退場セシム
ルコトヲ主目的トシタルモノトナシ從テ現内閣ハ我蘇滿ノ情勢大
變ニテ西比利亞進攻ヲ欲スレハ之ヲ爲スニ前内閣ヨリモ比較的自
由ノ立場ニアルモノナルモ英米ノ援蘇態度表明發露ノ對策變換ノ
勢ナク移々シカラサル等ノ事柄ヨリ此ノ派ハ前内閣時代ヨリノ既

各方面ニ依リて即ニ進駐シタルモノニシテ「ウイスター」立派中
日本ノ意ニ（シク）

S 1.7.0.0-14

632

S 1.7.0.0-14

631

REEL No. A-1077

0352

アジア歴史資料センター

外機密

昭和16 二二三三四二 暗 オタワ 七月二十八日午後 本 省 二十九日夜 送

豊田外務大臣

吉澤公使

第一一六號ノ二

電信寫

從ヒタルコトハ意外トスル所ナルカ夫レ又同政府ニ歸スル時ノ把
 握ノ強キコト明カトナリ又内閣政變ニ懸シ多少モシテハシタル
 我ノ獨斷係冷却ノ事實ナカリシコトモ推定シ得ル事ニテ新ノ英米
 情勢下ニ於ケル我方偏印遊歴ハ國ヲ新舊政變期間同時車ニ歸スル
 カ或ハ時機ヲ見テ西比利亞政略トナルヘク何レニシテモ英米ノ欲圖
 征討ニ有利ナル形勢ヲ展開スルコト必ズナラシメテ英米ノ欲圖
 ハルユル手段ヲ盡ササマヘカシサシテ英米國トシテハ今同ノ當面ハ
 已ムシ形勢ヲ所ニシテ英米ニ當リテハ英米ノ地位ニアル加緊は
 シテハ英米モ今日ハ英米モシタルコトハシラシメテ英米ノ欲圖ト
 ハ居ルニアラスヤト懸念スル(英米)

S 17.0.0-14

634

S 17.0.0-14

633

REEL No. A-1077

0353

アジア歴史資料センター

外機密

電信寫

昭和16 二二二二二二 暗
オタワ 七月二十八日後發
本省 二十九日後發

豊田外務大臣

吉澤公使

第一一六號ノ三 (機密)

右ハ案ヨリ首相ヨリハツキリ言明アリタル譯ニアラス旨類ニ依リ
タル演リ會談ノ時々ニ混シタルヲ本官ニ於テ適合セタル印象ニシ
テ而モ新聞等ニ現レ居ル臆測ノ範圍ヲ出テリルモ英米關係ニ於テ
首相ノ占ムル特殊地位ニモ錯ミ敢テ參考送電報スル次第ナリ
本へ電報セリ

S 1.7.0.0-14 635

特扱

電信寫

陸海
通報
陸軍
海軍

昭和16 二二一九四 暗
ワイニ 七月二十八日後發
本省 二十九日後發

豊田外務大臣

加藤大使

貴電三五〇號ニ關シ(對佛申入ノ件)

傳例ニ於テ會合付カサル爲メ七月二十九日午前十時ニ署名捺印ノ後
定署名ノ上ハ直ニ電報スヘシ(了)

S 1.7.0.0-14 636

外務省

REEL No. A-1077

アジア歴史資料センター

往電寫

極秘

外機密

總番二八五二一 (應符)

昭和十六年七月廿八日午後七時卅分發

管條一

在ヴィンシー 加藤大使

豐田外務大臣

對佛申入ノ件

第三二九號 大至急 館長符號扱

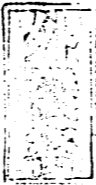
往電第三二〇號ニ關シ

本二十八日樞密院本會議ニ上程可決直ニ御裁可アリタルニ付至急
議定書ノ署名調印及公文ノ交映ヲ行ハレタシ調印ノ日時及日佛文
ニ於ケル署名振併セテ電報アリタシ

S 1.7.0.0-14

638

電信課作成



第五四四號

七月二十八日在盤谷二見公使豐田外務大臣宛電報寫

「ビナン」内報ニ依レハ二十六日「タロムビー」ハ「ビナン」ヲ訪
問本國政府ノ訓令ニ依ルニ以テ左記通告セル由

「著レ」タイ」政府カ第三國ニ對シ軍事基地ヲ提供或ハ軍事上便宜
ヲ許容スル場合ハ英「タイ」國ノ不可侵條約ハ無効ト認ム」

(丁)

外務省

(日本標準規格B5)

S 1.7.0.0-14

637

極秘

極秘

總番二八五二一(機符) 昭十六年七月廿八日午後七時 卅分發 管一

在 ヴィンシー 加藤大使 豊田外務大臣

對佛申入ノ件

第三二九號 大至急 館長符並扱

往電第三二〇號ニ關シ

本二十八日樞密院本會議ニ上程可決直ニ御裁可アリタルニ付至急
議定書ノ署名調印及公文ノ交換ヲ行ハレタシ調印ノ日時及日傍文
ニ於ケル署名振併セテ電報アリタシ

往電寫

夕

極秘

總番二八五二三 昭十六年七月廿八日午後七時 卅分發 管一

在 河内 林總領事 豊田外務大臣
西貢 養田總領事

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日佛議定書署名方訓電ノ件

合第一六三四號 大至急

共同防衛ニ關スル日佛議定書本二十八日樞密院本會議ニ上程可決
直ニ御裁可アリタルニ依リ至急署名調印方在佛加藤大使ニ訓電セ

往電寫

S 1.7.0.0-14 640

S 1.7.0.0-14 639

夕
林
密

極
秘

總番 二八五二二
二八五二三
昭 十六年 七月廿八日 後七時 卅分發 條一
和 昭 十六年 七月廿八日 後七時 卅分發 條一

電信課作成

往
電
寫

在 河内 林總領事
西貢 菱田總領事
豐田外務大臣
佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日佛議定書署名方訓電ノ件
合第一六三四號 大至急
共同防衛ニ關スル日佛議定書本二十八日樞密院本會議ニ上程可決
直ニ御教可アリタルニ依リ至急署名關印方在佛加藤大使ニ訓電セ
リ

S 1.7.0.0-14 641

特
扱

電
信
寫

昭和16 二二三四六 平
サイ
本 省 七月二十九日 前發
加藤大使
豐田外務大臣
第四三八號 (大至急)
シ
南

S 1.7.0.0-14 642

外
務
省

秘

海軍

電信寫

昭和10 二二四〇〇 河内 七月二十九日 午後八時

豎出外務大臣

林總領事

第二八二號

二十九日新聞) 發表左ノ通り

(一) 日本軍ハ二十八日朝「ニヤトラン」ニ於テ協メテ規則止シク且
 平穩裡ニ上陸ヲ開始セリ尙協定ニ依リ日本軍ハ「ニヤトラン」
 「ツーラン」「バノア」四頁「ソクトラン」「コンボントラク」
 「シエムレエブ」ノ飛行基地ヲ利用シ得ルモ何時使用サルルヤ
 目下不明ナリ

(二) 立田少將總督閣ニ現地交渉二十三日開始セラレ同日午後八時友

好禮ニ由ルマレリ

(三) 新協定ノ内容ハ日本軍ニ女南南島、交趾支那及「カンボジア」

ニ於ケル陸海空ノ基地使用ヲ認ムルニ任リ右日本軍ハ位印ノ外

、限ヲ防クニ十分ノ人員ト資材トヲ兼備ス

西英米ノ對日資金凍結及日本ノ報復手段ヲ自立ナテ防ク一

S 17.00-14

644

S 17.0.0-14

643

REEL No. A-1077

0358

アジア歴史資料センター



一、本ノ主力艦隊ハ二十九日十時頃「サンゴヤック」沖嶺地ニ進入ノ
 消息ナリ
 二、同地ノ海ノ運送開始ハ三十日朝ノ風込ナリ天気晴明、海上艦
 ノテ運送ナリ
 三、同地ニ於テ海軍艦ノ支隊ハ同地ニ於テ海軍艦ニ進出シアリ
 四、同地ニ於テ二十九日中ニハ海軍艦ノ支隊中ナル海軍艦ニアル事
 五、同地ニ於テノ報告アリ

6 1.7.0.0-14 646

陸軍

電信寫

秘

昭和16 一二三回一二 時
 豊田外務大臣
 第四回四回 至急
 貴電第三二〇號ニ關シ（海軍申入ノ件）
 一、議定書署名前印日時二十九日午前十一時
 二、議定書交換公文日附二十九日
 三、署名ノ書照日本文ハ本館ヲ宛トシ英文ハ「ドルラン」ニ送付ナリ
 ニシ左ノ通り
 加付外紙
 P. DALLA
 (了)

6 1.7.0.0-14 645

加付大便

REEL No. A-1077

0359

アジア歴史資料センター

大臣

(分類)

電 信 案	外 務 省	軍ハ二十八日先遣部隊二十九日本部隊夫々友 好禮ニ進駐ヲ	電送第 28725 號 昭和十六年七月二十九日午後九時分發	主管 電信課長 主任
			宛 加納大使 宛 伊予田進駐ニ因ル件	記録件名 伊予田大使

昭和十六年七月二十九日起草

104 細田

日本標準規格 B(1) S 1.7.0.0-14 648

宮

陸軍

「サンジャマク」海軍艦隊ハ二十八日十時宜野浜ニ上陸セリ
 海軍艦隊ニ付随スルヨリ全兵食ヲ提供セルヲ以テ二十八日中ニハ上陸
 部隊ノ大部ハ合符ヲ得ル見込ナリ
 「サンジャマク」海軍艦隊ハ二十五日十時上陸ヨリ開始セリ
 海軍艦隊艦隊ハ十時「サンジャマク」海軍艦隊ニ進駐セリ

陸軍

S 1.7.0.0-14 647

REEL No. A-1077

0360

電信寫

秘

る
す
す
す

昭和五 二二五(四)三三
本館 七月三十一日午後
三十一日午前
外務省
録
録

二十日新島報

二十八日付「ワイシー」以補助公使トシテ入ラシテ日領事館
ノ位置ヲ正備ニ知ラシムルコトヲ要ストテ決定前ノ内容ヲ
ワ利用セシムルニ在リテ領土ノ割譲ト其ノ位置ノ換
付等ニ依テ存スル所試テ刀説シ英ノ「シリヤ」ニ於ケル
取ト今ノ日本ノ友好的態度トノ間ニ非テ是等ノ事トナ
新島報ニ於テ英ノ領土ヲ割譲シテ領土ノ割譲ハ
...

...

6 1,7,0,0-14

650

6 1,7,0,0-14

649

REEL No. A-1077

036

アジア歴史資料センター



電

報

陸軍第一六〇軍

傳 印 軍

陸軍

六月十日十二時東京司令部、西村兵團長へ西貢先遣隊と共ニ西貢港ニ
 入港セリ上陸ハ八月一日頃ノ豫定ナリ
 西貢港ノ他ニ於ケル諸島ノ交渉ハ佛印領ノ友好的態度ニ依リ該等
 諸島ニ進歩アリテ西村兵團進出ノ上陸ニ近ク開始セラルル見込
 ナリ

6 1.7.0.0-14 651

REEL No. A-1077

0362

アジア歴史資料センター

Embassade

de la

Republique Française

au

Japon

Tokyo, le 30 juillet 1943

Teijiro Toyoda

n°64

Monsieur le Ministre,

Son Excellence le Maréchal Pétain, Chef de l'Etat

Français, m'a chargé de faire tenir à Son Excellence le Prince

Konoe le message que je prie Votre Excellence de bien vouloir trouver sous ce pli.

Je serais très reconnaissant à Votre Excellence de vouloir bien faire parvenir ce document à sa haute destination./.

Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances de ma très haute considération,

Charles Bréne Henry

Son Excellence

Monsieur l'Amiral Teijiro Toyoda

Ministre des Affaires Etrangères

etc, etc, etc,

TOKYO

譯文
15.8.1.
号收

5.7

S 1.7.0.0-14

654

登記
簿

Vichy, le 26 Juillet 1941

Monsieur le Président,

J'ai l'honneur d'accuser réception à Votre Excellence du message par lequel Elle a bien voulu m'éclairer sur la portée des propositions dont le Gouvernement Impérial a saisi mon Gouvernement. En Vous remerciant de cette attention, je tiens à mon tour à Vous faire connaître l'esprit dans lequel mon Gouvernement et moi-même avons accueilli la communication du Gouvernement Impérial.

Comme le marque Votre Excellence elle-même, les demandes japonaises ont un caractère de particulière gravité alors que depuis l'accord conclu dernièrement à Tokyo l'Indochine vivait dans une ère de calme tant à l'intérieur que sur ses frontières et que la France se trouve du fait des conventions d'armistice signées en Juin dernier dans une position exceptionnelle qui lui impose en fait une attitude de neutralité. Soucieux toutefois d'assurer efficacement en présence de circonstances exceptionnelles la défense de l'Indochine, mon Gouvernement, fidèle à sa résolution de protéger les territoires de l'Empire contre toute attaque et confiant dans les dispositions du Japon, est décidé à accueillir les propositions de coopération militaire présentées par Son Excellence M. Kato. Votre Excellence a bien voulu en effet m'assurer de la ferme détermination du Gouvernement

Son Excellence

Le Prince Fumimaro Konoe

Président du Conseil des Ministres

etc, etc, etc,

TOKYO

S 1.7.0.0-14

653

Impérial de remplir les obligations découlant de l'engagement qu'il prend solennellement de respecter l'intégrité territoriale de l'Indochine et la souveraineté de la France sur toute l'Union.

Je suis heureux de prendre note de cet engagement qui renouvelle celui que le Japon a déjà contracté envers la France le 30 Août 1940. Le fait que Votre Excellence a tenu à me réitérer cette assurance suffit à prouver qu'Elle estime que la coopération militaire à laquelle aspire le Japon en Indochine s'insère dans le cadre de cette intégrité et de cette souveraineté et ne saurait, tant dans le présent qu'à l'avenir, être considérée comme de nature à porter atteinte à l'une ou l'autre.

Les traditions d'honneur et de loyauté de la Nation Japonaise sont pour la Nation Française et pour moi-même la plus sûre garantie de l'esprit amical qui continuera à inspirer les rapports entre nos deux pays. Les assurances personnelles qu'y a ajouté le message de Votre Excellence (à laquelle je tiens à exprimer ma plus vive et plus particulière estime) ont confirmé les sentiments de confiance qui déterminèrent ma décision ./.

signé : Pétain

S 1.7.0.0-14

652

駐日佛國大使來翰（假譯）

拜啓陳者本使ハ「ダurlラン」提督ヨリ閣下ニ「メツセージ」ヲ傳達
スベキ旨訓令ニ接シ候

右「メツセージ」ハ別紙ノ通ニ候條御高覽相成度候

敬具

一九四一年八月四日

東京

シャルル、アルセーヌ・アンリー（署名）

外務大臣豊田貞次郎閣下

外務省

8 17.0.0-14

655

「ダurlラン」副總理ヨリ豊田外務大臣
ニ宛テラレタル「メツセージ」

日佛間新取極調印ニ當リ本大臣宛「メツセージ」ヲ發セラレタル閣
下ノ御厚志深謝ニ堪エズ本大臣ハ右「メツセージ」ニ對シ御同慶ノ
至リナル旨衷心ヨリ答へ得ルヲ欣幸トス

緊迫セル國際情勢下ニ於テ本大臣カ日本帝國政府ノ見解ニ參加セ
トスル所以ノモノハ日佛兩國共同利益ノ爲努力セントスル固キ信念
ニ依ルモノナリ。本大臣ハ閣下カ吾々ノ尊重シ且本大臣個人ノ感情
ニモ合致スル保障ヲ與ヘラレタルヲ欣快トス

本大臣ハ閣下カ追懐セラレタル余等ノ個人的舊交カ極東ノ平和及繁
榮ノ爲協力シツツアル余等ノ努力ノ結果ニ對シ更ニ大ナル期待ヲ懷
カシムルモノナルヲ確シテ疑ハズ

一九四一年八月三日

ヴァイシー

ダurlラン（署名）

外務省

8 17.0.0-14

656

外機密

昭和16 一二二六五八、暗 サンダカン 七月三十一日前發 本 省 三十一日夜着 弘

豊田外務大臣

山本領事

第一五二號

貴電合第一五九八號ニ謂シ（佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日佛間取極成立ノ件）

當國內ニ於テハ新聞雜誌等全然發行セラシ居ラサル爲所謂一般輿論等ハ知ルニ由ナキモ二十六日ノ帝國政府聲明ノ直前即チ二十七日當國政府カ本邦ニ對スル爲替取組禁止令ヲ發シテ本邦對資金ノ凍結ヲ漸行セルハ往電第一四五號ヲ以テ報告ノ預ナルカ今後共英本領及新嘉坡方面ト呼應シ本邦人ニ經濟的負擔ヲ加フルモ

電信寫

メラシ尙當地住民殊ニ華僑間ニ在リテ右帝國政府ノ聲明ト本邦資金ノ凍結及「バンドン」丸ノ當地寄港取止メヲ結ビ附ケ今ニモ帝國軍艦カ來攻シテ當方面ヲ占領スルトカ或ハ現ニ帝國潛水艦カボルネオ一近海ヲ遊航シツンアリ等種々難多ナル風評ヲ流布シ居ル由ナキモ本邦人ニ對シテハ態度極メテ冷靜ニシテ寧ろ好感ヲ示シ居レリ其他「マレー」人及土人等ハ我國セスノ態度ナリ

S 1.7.0.0-14

658

S 1.7.0.0-14

657

外機密

電信寫

昭和16 五五四四四 附 張家口 七月三十一日午後 弘
本省 三十一日午後

豐田外務大臣

第一三六號

本官發厚和六同宛電報

合第一〇三號

北京發電報合第三四六號(大臣來電合第一五八七號發信)ニ關シ

(佛印南部進駐ニ伴フ宣傳方針ニ關スル件)

軍機ノ從來ノ關係モアリ本件ニ付草擬ニ連絡シタル處軍ハモ中

央ヨリ同意旨ノ電報アリタル事ナルモ官頭來電ニ、(一)我方ノ

心ハ南方ニアリ北進ニ非サルニ云々ノ項ニ關シテハ何等指示ヲ電

ケ居ラサルヲ以テ會分ノ間同項ヲ除キ指導スルコトニ訂合セタル

ニ付右御會意

本電宛先、厚和、大同

大臣、北六へ轉電セリ

S 17.0.0-14 660

S 17.0.0-14 659

REEL No. A-1077

0368

アジア歴史資料センター

電 信 案

外 務 省

(日本標準規格B5)
S 1.7.0.0-14 664

其ノ中若干ノタイノ玉境ヲ一飛行場ヲ含ム國地基
地ナル旨言明セラル由ナル也 本ノ事務係ニテ
先立テ秘密ナルハ例ニ依リテ本ノ事務係ニテ
秘密ナル旨調査ノ上回電アリ被レクナリ
原主何レノ注意セシメ及

油五

(分類)

電 信 案	外 務 省	電送第 29239 號	主管 南洋局長
		昭和十六年七月廿二日發	主任 南洋課長
		件 名 (佛國政府「スポーツスマニール」 言明ニ関スル件)	在 ヴィシー 加藤大使
		第 三三五 號	發 曲田大使
		記 録 件	
		二十八日夜倫敦海外放送ニ依リ同日貴地「オフィセヤ ル・スポーツスマニール」日本に今次取極ニ依リニ所 海軍基地及航空基地八所ヲ獲得セルモノニシテ	

昭和十六年七月廿二日發

31 12

(日本標準規格B5)
S 1.7.0.0-14 663

REEL No. A-1077

0369

アジア歴史資料センター

秘

電報

七三〇一六〇三發
二一四二四著

總務部長宛

英國大使館附武官

第七八號

昭和一六七一



譯者報

一 英米ニ於テハ日本ガ最近大規模ニ動員中ナルコトニ多大ノ關心ヲ有シ其ノ兵力ガ南進、北進何レニ使用セラルベキヤヲ注視スルト共ニ其ノ結果如何ニ依リテハ對日制裁強化或ハ武力衝突ノ止ムナキ適合ヲモ願感シツツアリ

二 英米蘭印間ニ南太平洋防備ニ關シ秘密協定協議中ニシテ近夕決定スベキモ其ノ内容ハ發表セラレザルベシ

註、最近當地新聞「ラジオ」ニ於テハ極東ニ對スル APOD (英、米、支、和蘭) 政策頻リニ報道セラレアリ

(終)

秘

昭和16 二二六九七

河内 七月三十一日午後
本省 八月 一日前着

林總領事

駐外務大臣

第二八五號

三十一日新聞報

ス
ヤ
シ
ヤ
シ

一、日英共同防衛ニ關スル協定書加藤大使及「マルラン」ニ依リ一
十九日午前十一時「ワイシ」ニテ署名セラルル旨「ワイシ」
一、電ヲ協定書ノ内容ニ關シ揚ク

二、平洋ニ於ケル日本ノ態度ハ華國ナルヘシトノ見出シノ下ニ
米方今次ノ協定ニ於ケル既成事實ヲ認ムレハ之レ以上ノ南進ヲ
蓋シテヘキモ米カ石炭通ヲモ禁絶スル場合ニハ日本ハ其ノ

東下シテ佛印ニ至ル基地ヲ米メタル迄ニテ日本ノ目的ハ結局太
平洋ノ平和維持ニアルヲ以テ米ノ對日資金凍結ノ事トナリノ

ムルヲ得テ日米間ニ妥協ノ案出向キスヘク因襲ノ欺誘有テニ
獨ノ國ニハ日本ハ寧ロ他ノ方向ニ行動ノ自由ヲ確保スルヲ念
シ居ル如シ

三、商談ニ於テ

相引續キ佛印ノ主權ノ侵害マラレザルヲ確保シ日本今次ノ協
定ニ關シテ「ワイシ」元帥ニ思慮ナリシニ對シテ「ワイシ」
ノナレハ共同防衛ニ依リ佛印ノ立憲ハ強化マシメ佛印人一般
ノ生命財產ノ保護ハ免カレタリ「ワイシ」政府トシテハ時

電信寫

S 1.7.0.0-14 666 S 1.7.0.0-14 665

REEL No. A-1077

アジア歴史資料センター

外機密

昭和16 二二〇八六 (暗) ヴィシー 八月二日後發 附。弘

穀田外務大臣

第四四六號

加藤大使

浦部

貨電第三三五號ニ關シ(佛國政府「オフィシャル、スポークスマン」ニ於テ貴
「」ノ皇軍基地言明ニ關スル件)
取調ヘタル處佛國ハ「オフィシャル、スポークスマン」ニ於テ貴
電ノ如キ言明ヲ爲シタル事實ナシ尙當地米人記者ハ米網大使館口
リ情報ヲ得居ルモノノ如ク當地朝日新聞記者ニ對シ其地ノ敵地ニ
所在地ニ關シ執拗ニ質問セル趣ナリ(了)

電信寫

S 17.0.0-14 669

外務省

電信課長

昭和一六八二

七二八一四ニ發
ハ一二三〇九著

印度 駐 劄 武 官

第二三三號

南望

日本ノ佛印進駐ニ對シ英米ノ出方ニ關シテハ當初開戰說喧傳セラレ
經濟界ニ大衝動ヲ與ヘタルガ次デ英米ノ經濟報復ヲ知ルヤ戰爭ヘノ
發展ハ尙時間アルベク又戰爭ニハ双方共差當リ訴ヘサルベキ等傳ヘ
ラレ特ニ戰爭回避說ヲ掲ゲザルモ一般ニ新聞論調ハ案外軟弱ナリ又
蘭印ガ直チニ英米ニ追隨シ同一行動ニ出デサルヲ遺憾トナスモ

(終)

S 17.0.0-14 670

陸海軍省
秘書官

南 洋 艦 隊 長
Ambassade
de la République Française
au Japon

東京, le 4 août 1941

67

Monsieur le Ministre,

L'Amiral Darlan m'a chargé de faire parvenir à Votre Excellence un message.

Je prie Votre Excellence de bien vouloir trouver sous ce pli la communication du Ministre des Affaires Etrangères./.

Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances de ma très haute considération,

Charles René Henry

Son Excellence

Monsieur l'Amiral Teijiro Toyoda
Ministre des Affaires Etrangères

etc, etc, etc,
Tokyo

S 1.7.0.0-14 674



記
時
券

Vichy, le 3 Août 1941

Monsieur le Ministre,

Vivement touché du message que Votre Excellence a bien voulu m'adresser à l'occasion de la signature des nouveaux accords intervenus entre le Japon et la France, il m'est particulièrement agréable de pouvoir répondre en toute sincérité aux sentiments exprimés par Votre Excellence.

C'est avec la ferme conviction de travailler pour le bien de nos deux pays que j'ai cru pouvoir, en des circonstances particulièrement graves, entrer dans les vues du Gouvernement Impérial. Je suis heureux de recevoir de Votre Excellence des assurances qui me sont précieuses et confirment mes propres sentiments. Les relations déjà anciennes qui nous lient personnellement et dont Vous voulez bien évoquer le souvenir sont pour moi une raison de plus pour fonder les plus grands espoirs sur les résultats des efforts que nous poursuivons en commun pour assurer la paix et développer la prospérité en Extrême-Orient ./.

signé : Darlan

S 1.7.0.0-14

673

南洋局長

駐日佛國大使來翰（假譯）

拜啓 陳者本使ハ佛國主席「メタン」元帥閣下ヨリ別紙「メツセー

ジ」ヲ近衛公爵閣下ヘ傳達スベキ旨訓令ニ接シ

依ツテ本使ハ右「メツセー」ヲ閣下ヨリ近衛公爵閣下ヘ可然御轉

達被^レ仰^ル依願申上

敬具

一九四一年八月四日

東京

シャルル・アルセーヌ・アンリー（署名）

外務大臣豊田貞次郎閣下

外務省

S 1.7.0.0-14 675

「メタン」元帥ヨリ近衛公宛「メツセー」假譯

閣下ノ御懇篤ナル厚情深謝ニ堪エズ

閣下ノ御健康並ニ日本國ノ隆昌ヲ衷心ヨリ祈ル

一九四一年八月三日

ワイシー

「メタン」元帥（署名）

外務省

S 1.7.0.0-14 676

Ambrunade

à la

Republique Française

au

Japon

68

首
洋
局

Monsieur le Ministre,

Paris le 4 août 1941

Son Excellence le Maréchal Pétain, Chef de l'Etat Français, m'a chargé de faire tenir à Son Excellence le Prince Konoé le message que je prie Votre Excellence de bien vouloir trouver sous ce pli.

Je serais très reconnaissant à Votre Excellence de vouloir bien faire parvenir ce document à sa haute destination ./.

Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances de ma très haute considération,

Charles De Gaulle

Son Excellence

Monsieur l'Amiral Teijiro Toyoda

Ministre des Affaires Etrangères

etc, etc,etc,

Tokyo



S 1.7.0.0-14

678



Vichy, le 3 Août 1941

Très sensible aux sentiments exprimés par Votre
Excellence, je La prie de vouloir bien agréer les vœux
sincères que je formule pour Sa santé et pour la prospérité
du Japon ./.

signé : Maréchal Pétain

S 17,0,0-14

677

REEL No. A-1077

0379

アジア歴史資料センター

大臣

松本

次官

條約局長

近衛總理

外務省

近衛總理

南...

「ベタン」佛蘭主席發近衛總理宛「メッセーヂ」ノ件

七月三十日附「アンリ」駐日佛蘭大使發
豊田外務大臣宛第六十四號書翰便譯

以書翰啓上致佛蘭書今致「フランス」國主席「ベタン」元帥閣下ハ
本使ニ對シ別添「メッセーヂ」ヲ近衛公使閣下ニ提出方申越佛蘭書
ニ悉縮ニ存便得共右文書ヲ貴大臣ヨリ公使閣下ニ御傳達相煩度此致
御依頼申上候

右申進旁本使ハ茲ニ重ホテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬 具

千九百四十一年七月二十日東京ニ於テ

「エンゲル・アルセーヌ・アンリ」(署名)

豊田外務大臣閣下

(七月二十六日附「ベタン」佛蘭主席發近衛總理
宛「メッセーヂ」便譯)
以書翰啓上致佛蘭書茲ニ本政府ニ爲サレタル貴方提案ノ範圍ヲ闡明
セラレタル閣下ノ「メッセーヂ」敬承致候右御配應ニ對シ茲ニ謝意
ヲ表スルト共ニ本主席モ亦閣下ニ對シ本國政府及本主席自身ガ貴方
ノ申出ヲ受領セル趣意ヲ闡明セントスルモノニ有之候
印度支那ハ茲ニ東京ニ於テ協定ガ締結セラレテヨリ國內ニ於テモ又
幽境ニ於テモ靜謐ヲ保持シ居リ且ツ又「フランス」國ハ容年六月署
名セラレタル休戰條約ニ依リ異例的地位ニ置カレ事實上中立的態度
ヲ餘儀ナクセラレ居リ候處、今致ノ日本側要求ハ閣下御自身指摘相
成タル如ク特別ノ重要性ヲ有スルモノニ有之、旁々「フランス」國
ハ一切ノ攻撃ニ對シ其ノ帝國領土ヲ保護スルノ固キ決意ヲ有スルニ
付、茲ニ日本側ノ措置ヲ備頓シテ加藤閣下ノ提案セラレタル軍事的
協力ニ關スル提案ヲ受諾スルコトニ決定致候

外務省

S 1.7.0.0-14 680

外務省

S 1.7.0.0-14 679

REEL No. A-1077

0380

アジア歴史資料センター

右ハ閣下ガ貴政府ハ印度支那ノ領土保全及全聯邦ニ對スル「フランス」國主權ノ尊重ニ關スル嚴肅ナル約束ヨリ生ズル責務ヲ嚴守スル固キ決意ヲ有スル旨本主席ニ保證相成リタルガ爲ニ有之條
右約束ニ依リ千九百四十年八月三十日貴國ガ我國ニ與ヘラレタル約束ヲ更新セラレタルハ本主席ノ最モ幸甚トスル所ニシテ、殊ニ閣下ガ特ニ右保障ヲ繰返サレタル事實ハ日本國ノ印度支那ニ於テ意圖スル軍事的協力ハ現在前記領土保全及主權ノ境外ニ出デザルノミナラズ將來ニ於テモ同様右保全及主權ノ何レヲモ毀損スルガ如キ性質ノモノニ非ストノ閣下ノ御見解ヲ充分ニ立證スルモノニ有之條
日本國民ノ名譽ト節義ト傳統ハ「フランス」國民及本主席自身ニ取リ日佛兩國關係ノ基調タル友好的精神ノ持續ニ對スル最モ確實ナル保障ナルノミナラズ閣下ガ其ノ「メツセーヂ」ニ依リ與ヘラレタル個人的保證ハ本主席ヲシテ通々信頼ノ念ヲ鞏固ナラシメタル次第ニ有之條

外務省

日本標準規格B5
S 1.7.0.0-14 681

右申進旁本主席ハ茲ニ閣下ニ向テ最モ深甚ナル敬意ヲ表シ候

敬具

千九百四十二年七月二十六日「サイン」ニ於テ
「ハットン」(署名)

近衛總理大臣閣下

外務省

日本標準規格B5
S 1.7.0.0-14 682

秘

寫

佛印

電

報

佛

印

軍

昭和一六、八、五

陸

軍

四日左ノ軍發表ヲ實施セリ
日佛印共同防衛ノ協定ニ基キ派遣セラレタル佛印派遣軍ハ七月二十
八日南部佛印ノ上陸ヲ開始シ爾來西貢及「ナトラン」附近各地區ニ
進駐中ノ所各地區共佛印側ノ友好精神ニ依リ平和裡ニ進歩シ八月四
日其ノ配備ヲ完了セリ

(終)

S 17.0.0-14

633

寫

秘

電

報

昭和一六、八、一〇

佛

印

軍

陸

軍

譯者報 (確度甲)

順化東南約十キロ

日本軍ノ南方進駐ニ伴ヒ佛印空軍基地ヲ左ノ如ク變更ス

「ツーラン」飛行大隊ハ「チュフクリー」(「ユエ」附近)へ、「ビ

エンホア」「タンソニヤット」飛行大隊ハ「トントン」へ夫々移駐ス

西ニクヨリ十キロ

西ニク西南六七十キロ

河内ノ西北三四十キロ

一番佛印が
注イテ遺法ニテ
モノ

S 17.0.0-14

684

信寫

外機密

極秘

昭和16 二六八一二 (暗) ヴイシー 八月三十日午後 文
本 省 三十一日前着 條

豊田外務大臣

第四七八號

佛印共同防衛ニ關スル議定書本書及附屬交換公文本書幸便ニ託シ
送付致シ度キ處機密保持ノ關係モアリ送付方法何分ノ候御指示相

成度

加藤大使

(了)

B 1.7.0.0-14 687

REEL No. A-1077

0384

アジア歴史資料センター

司令部

外務省

秘

電報
次官宛
河内電第七三三號

九一ニ一
二一ニ一
五〇發
河内電
澄著

田機

昭和一九四〇

南洋
10.9.11

三
11.6.01

去ル八月三十日澄田中將署名ノ上佛印側ニ提出セル「日本軍専用、
不動産、賃借料金支拂協定」ニ對スル「ドク」總管ノ署名ヲ了セ
ルヲ以テ日、佛兩文ノ寫ヲ最近便ニ依リ空送ス（海軍ニハ別送ス）

(終)

通電先 陸、參、富、山縣、西貢

S 1.7.0.0-14 688

REEL No. A-1077

0385

アジア歴史資料センター